

情報共有を目的とした SNS 活用の授業の実践報告

古川夏子[†]

本稿では Web サイトを制作する実習科目において、授業で抱える諸問題を解決するために既存のソーシャルネットワークサービス (SNS) を学生間のコミュニケーションツールとして利用した実践事例を報告する。具体的には個々に所有する情報を学生間で共有することで、間接的に作品制作に影響を与えることができると考え、授業内外での SNS “Facebook” の活用を試みた。本研究のポイントはシステムの構築はせず既存のツールを利用したことにより低コスト、教員の作業負担の軽減を実現することである。

Application of SNS for Information Sharing

Natsuko Furukawa[†]

In this paper, the solution to some problems in making web sites work for practical training classes is presented. For the purpose of my work, existing SNS has been employed as a communication tool among subject students.

Specifically, I predicted that some possible positive effects on the productions of their works can be expected by sharing personal information among subject students, this study used “Facebook” both in and out of classrooms.

The significance of the proposed method in this study is that method uses existing systems and can reduced physical and mental toll feasible on instructors.

1. はじめに

秋草学園短期大学で開講されている「Webデザイン演習」は、個々に好きなテーマを設定し自由なデザインでWebサイトを制作する演習科目である[1]。授業構成はWebサイト制作に関する講義の他、学生の作品制作の作業時間も設けている。2010年度は履修者2年次18名に対し教員とアシスタントの2名で指導を行った。作品制作に必要な豊富な知識や技術を習得するため、履修者は1年次でWebサイト制作に関する基礎知識や技術を、2年次には当科目と並行して応用的な技術を習得する講義を設け、Webサイトを制作する能力を十分に身につけてから当科目を履修するような体制を整えている[2]。しかし現状では、学生の能力はWebサイトを自力で完成する技術力が乏しい。履修者に多く見られる傾向として、理想の作品を実現するために高度な技術を取り入れようとするが、自分で調査せずすぐに教員に質問する、もしくは試みることなくあきらめてしまうことから、作品制作への意欲が弱いと考えられる。また、個々に全く異なるWebサイトを制作するため、学生全員の要求に応えられるような講義を限られた授業時間のなかで行うことは不可能であり、学生が必要とする情報を網羅することが難しい。さらに、筆者は非常勤講師[a]として勤務していたため授業時間外に学生を指導する時間を取るのが容易ではない。つまり、学生が思い描いている作品の完成を実現することは困難な状況にある。

そこで、上記に述べた諸問題を解決するための支援対策を次のように考えた。

- ① 自己学習力の向上が作品制作に大きな影響を与えると仮定し、プレゼンテーションを通して実現する。
- ② 個々に必要とする情報を学生間で共有し合えるようになれば、講義時間の大幅短縮となり効率よく授業ができる。

具体的なアプローチとしては、Webサイト制作に必要な知識や技術に関する情報を学生同士で提供できるようにプレゼンテーションを行い、学生にとって有用な情報を共有するためのツールに既存のソーシャルネットワークサービス (以下、SNS と記す) を採用した。

①と②より、SNSを介して学生らが作品制作に関する知識を提供し、個々に必要とする情報を取得できるようにすることを目的とした (図1)。本稿では既存のSNSを学生間のコミュニケーションツールとして授業内外で利用した実践事例と作品制作への影響、さらにSNS利用のメリットについて述べる。

[†]西武台千葉高等学校
Seibudai Chiba High School

a) 2010年度まで秋草学園短期大学の非常勤講師として当該科目を担当。本論文は昨年度の授業実践を報告したものである。

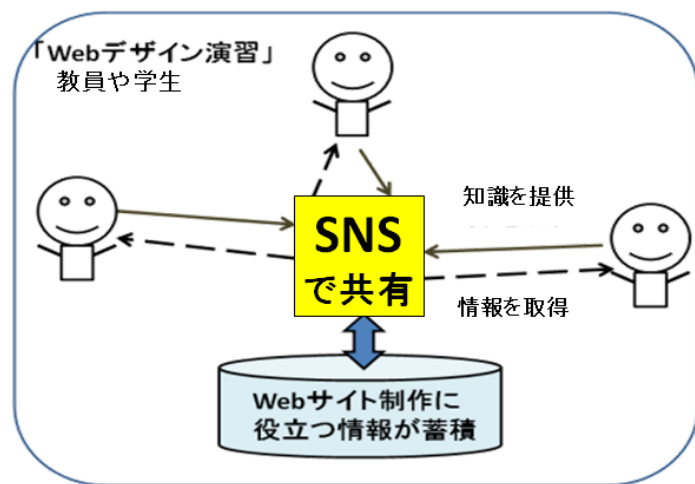


図1 SNSを利用した概要イメージ

2. SNSを活用した授業展開

2.1 SNSの導入理由

授業において抱えている問題を解決するために下記の条件を満たすツールを授業に取り入れることができないか考えた。

(1) 情報共有できる保管領域が十分にある。

様々なデータを自由に保管するためのストレージを備えているツールが必要である。

(2) 時間や場所の制約がなく利用できる。

インターネットが利用できる場所なら、授業内でなくさらに学内でなくとも自由に利用できる気軽さが学生の利用頻度を促進するために重要である。

(3) 低コスト、設置作業の負担が少ない。

近年、授業支援システムの研究開発が盛んであるが、秋草短大は小規模校であり各科目の予算も多くは使えない。そのため、コスト削減は避けられない。

(4) 短期間で操作方法を容易に理解できる。

作品制作の期間は約半年であり、非常に短く限られていることからツールの操作に時間や手間をかけることができない。例えば、既存のSNSは近年若者を中心に繁栄していることから[3]、当学生も操作方法等が既知であると想定した。

以上の点から既存の SNS を授業用コミュニケーションツールとして利用することにした。ここで、世界や日本において主要な SNS は多数あり、その機能も多種多様で

我々にとって適しているものを採用しなければならない。次項では授業で導入した SNS について説明する。

2.2 Facebookの可能性

SNSはFacebookやMyspace, mixiなど世界で多数存在するが、現在世界シェア 1位[4]であるFacebookと日本で利用人口のシェア 1位を占めている[5] mixiに着目した。Facebookは世界の利用人口推定 7億 5千万人以上[6]、Webサイト利用者数はYahoo!を抜き世界 3位となった[5]という統計調査がある。二者ともソーシャルメディアとして類似している機能は多いが、大きな違いはFacebookが実名登録制を推奨している点である。

次に二者の類似点と相違点をまとめた。

- 類似点: 友人登録、趣味や団体のコミュニティページの作成、書き込み機能、アップロードした画像を共有する、メールやチャット機能 等
- 相違点: Facebook は実名登録制であり、顔写真の掲載を推奨しているため、学校やビジネスで利用されることも多い。それに対して mixi はニックネームでの登録、プロフィールに好きな画像を個人イメージとして設定する場面が多いため、個人の趣味範囲で利用されている。

上記の 2点を考慮すると、Facebook は利用者にとって実名で登録しオープンであることが信頼や安心につながり教育で利用するツールに適しており、各個人のセキュリティの設定が柔軟であることが利点であり、授業で採用した。

2.3 初期設定とグループの作成

最初に Facebook 上で授業用コミュニティページを作成した。このコミュニティの作成者および管理者は教員とする。具体的にはグループと呼ばれる機能を利用し、履修者と教員、アシスタントのみアクセスできる「Webデザイン演習」グループという名称で設置した。グループ機能とはユーザ間で自由にコミュニティを作成し、文書の共有、メンバーリスト、写真の共有、スケジュール管理などの機能を用いてグループ内だけで情報を共有できる。我々のグループは外部ユーザからは所属するメンバーやグループ内に書きこまれた情報を一切閲覧できないように設定をした。

次に学生側の設定として、Facebook を使用するためにアカウント登録を行う。個人情報の登録は実名と学校名、メールアドレスのみ義務付け、その他は各学生の任意とした。これは初めて SNS を使用する学生への不安を取り除くためである。インターネットという相手が見えない空間上で実名やメールアドレス等の個人が特定できる情報を登録することに不信感を持っている学生も数名いたことが理由となる。

最後にアカウント登録後、管理者がグループ[b]のメンバーとして学生の参加を許可

b) グループのメンバーは教員とアシスタント、履修者で構成する。

し、授業で利用するまでの準備が完了する(図2)。

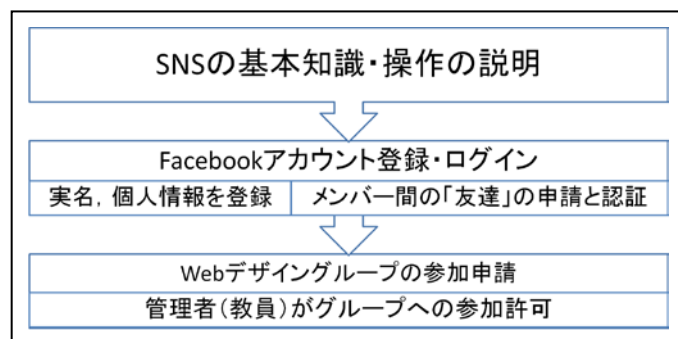


図2 学生における SNS 利用の流れ

2.4 情報共有のための SNS 活用方法

ここでは授業の実践事例について述べる。まず学生に、作品制作に役立つ情報を調査し、授業で毎回一人ずつ10分程度発表する課題を与えた。発表の名称は「知って得するプレゼンテーション」(以下、「知っ得プレゼン」と省略する)と付け、学生に親しみやすいようにした。Webサイトに関する内容であれば各自テーマや発表形式が自由に設定できる。実際に学生が発表したテーマは「Webページの配色の工夫」や「画像加工方法」、「アクセシビリティについて」、「デザインアイデアの紹介」、「Webサイト制作のテクニック紹介」など多種多様であった。他の学生は自分の作品制作に有効活用しようと熱心に聞いており、発表の回数を重ねるごとに興味関心が高まっているように見受けられた。

次に「知っ得プレゼン」における Facebook の活用方法を述べる(図3)。

① 発表者は後日、その内容をレポートし投稿する。

発表者はグループ機能の「ディスカッション」という掲示板に発表テーマとその内容をレポートし書きこみすることにより、知識の提供を行うことができる。

② 聞き手は発表者に対して感想や質問などのコメントを投稿する。

聞き手には「ウォール」というページに発表者へ感想や質問などコメントを書きこむよう義務付けた。「ウォール」は Twitter のような短いコメントを書きこむページである。)書き込まれたコメントに対してメンバーは「ウォール」上で議論し合うことは自由である。

③ メンバーはグループ内の内容を自由に閲覧できる。

発表者によって投稿された「知っ得プレゼン」の内容は個々の役立つ情報として自由に取得できる。Facebook 上にある情報は、場所や時間的なある程度の制約を考えずに閲覧できることが大きな利点である。

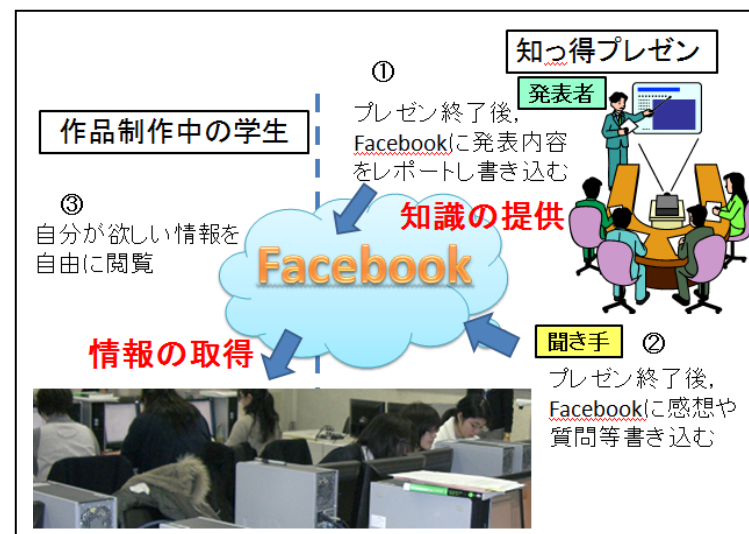


図3 Facebook の活用方法

また、「知っ得プレゼン」で利用した以外の機能は次のとおりである。

- 「イベント」と呼ばれるスケジュール管理機能を用いて教員が毎講義の内容記録をまとめたページを作成した。
- 急な授業変更の連絡は、メーリングリスト機能を用いてメンバー全員の携帯メールに一斉送信される。ただし予めわかっている連絡事項は、「ウォール」へ書き込みをした。
- 個々の学生に連絡を取りたい場合はメッセージ機能を利用してメールを送ると、登録した携帯メールに届くので、レスポンスが期待できる。
- 講義に必要な写真類の画像はいつでも参照できるように、「写真」と呼ばれる共有スペースにアップロードした。

このように、欠席した学生に配慮したり、急な変更にも対応できるようにしたり、学生らに頻りに利用してもらうため授業内外でアクセスするような様々な機能を存分に活用した。

活用方法のポイントは学生らは発表した内容をいつでも参照できるようになるだけでなく、質問やアドバイスなど Facebook 上でメンバーなら誰とでも議論し合えることにある。「いつでも、どこでも、だれとでも」といった時間や場所、人との制約がない空間上での活動は学生がストレスを感じることなく気軽に参加することができる。つまり、この気軽さが自己学習力を向上させ、作品制作にプラスな影響を与えるきつ

かけになるのではないかと考えた。

3. アンケート結果と効果の検証

本研究の成果を調査するため、授業最終日に 17 名の履修生に匿名性のアンケートを実施した。質問テーマは大きく分けて「SNS (Facebook)」(表 1) と「知っ得プレゼン」(表 3) の二点を設けた。アンケート項目とその結果は以下のとおりである。

表 1 アンケート「SNS (Facebook) について」

質問項目	回答形式
質問 1 ソーシャルメディア (Facebook や mixi, Twitter 等) の使用経験	選択式
質問 2 Facebook を利用した感想	自由記述式
質問 3 授業外の利用状況[c]	選択式
質問 4 授業 (「知っ得プレゼン」や連絡事項等に利用したこと) へ導入した感想	自由記述式

上記の質問事項 2 と 4 の回答結果は表 2 (自由記述形式のため類似回答はまとめてある) に、質問事項 1 と 3 は図 4 と図 5 にグラフで示す。

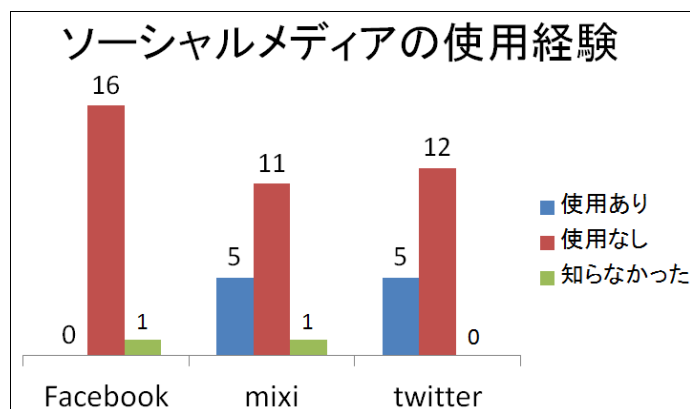


図 4 質問 1. の回答結果

c) Facebook の授業内での利用状況については、毎授業時に「知っ得プレゼン」等で利用することを義務付けていたことにより質問項目からは外した。

表 2 質問項目 2 と 4 の回答 (回答数)

質問 2. 「Facebook を利用した感想」

- ・興味深い / 利用することができてよかった(9)
- ・抵抗があった(4)
- ・必要性を感じることができない(1)
- ・これからも利用したい(1)
- ・わからない(2)

質問 4. 「Facebook を授業へ導入した感想」

- ・欲しい情報をすぐ得ることができた(9)
- ・インターネット上で連絡を取り合えたことが便利である (2)
- ・自分の好きな時間に利用ができた(1)
- ・普段使い慣れていないので苦労した(1)
- ・よいかどうかわからない(1)
- ・未回答(3)



図 5 質問 3. の回答結果

図 4 から履修者の多数が Facebook を中心にソーシャルメディアを使った経験がなく、その影響が授業外の利用頻度が低い結果に結びついたことが推測できる。教員は学生が授業外でも利用するように工夫をしたが半数以上効果が見られなかった。実際、

教員がグループメンバーに連絡をしたり質問を投げかけた時も学生の応答は半数程度であった。しかし、利用したこと自体に注目すると成果があったと言えるのではないだろうか。最も多い理由は必要な情報の取得であり、さらに個人が自由に利用できる点である。また、質問 2. にある回答「抵抗があった」においても、図 4 に見られる結果と関係があると考えられ、やはり実名制やメールアドレス等の個人情報を使用する Facebook の特徴がデメリットとなった面も結果として表れた。

表 3 アンケート「知っ得プレゼンについて」

質問項目	回答形式
質問 1 作品制作に役立ったか	選択式
質問 2 作品以外にも役立ったか	選択式
質問 3 授業に知っ得プレゼンを導入した感想	自由記述式

上記のアンケートにおいて質問事項 1 と 2 は図 6 にグラフで示す。質問事項 3 の回答結果は表 4 に示す（自由記述形式のため類似回答はまとめてある）。

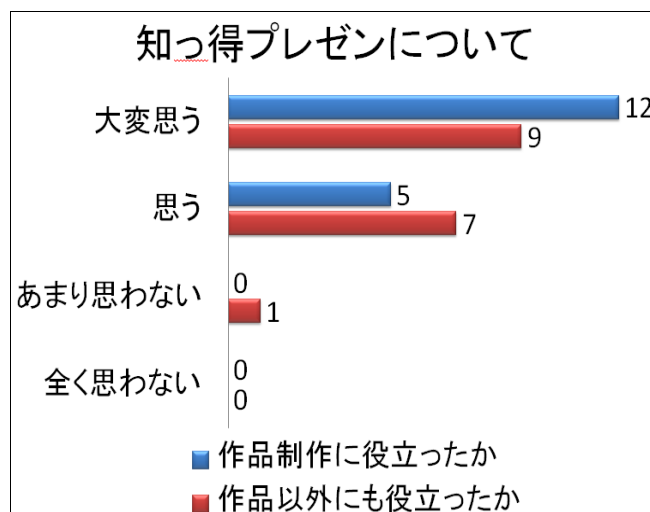


図 6 質問 1. と質問 2. の回答結果

表 4 質問項目 3 の回答（回答数）

- 様々な情報を得ることができたのでよかった(7)
- 発表者の趣味や性格を知ることができてよかった(2)
- 発表することが嫌だった(2)
- 発表が社会人になるための勉強になった(2)
- 聞き手の立場にたって発表テーマや内容を考えるのが楽しかった(1)
- 調査は色んな発見があり楽しかった(1)
- 未回答(2)

図 6 から「知っ得プレゼン」の実施は大いに成果があったことがわかった。質問 3. の回答からも、情報の取得が実現できただけでなく、自分にとってどんな情報が必要なのか考えて学習するということが自己学習向上の第一歩としてつながったのではないかと推測できる。

アンケート全体の結果をまとめると、Facebook の利用は「知っ得プレゼン」による発表者からの情報提供が大部分を占め、それが作品制作へ大きな影響を与えたことがわかった。

4. おわりに

本稿の実践事例は 2010 年度後期の授業のものである。短い期間での調査から成果が得られたか信憑性の問題もあるが、アンケート結果を分析すると SNS の利用が間接的であるが作品制作に影響を与え、学生のスキルアップ効果があったのではないかと考えられる。また、SNS を導入した大きなポイントは、教員の負担が軽減したことにより学生への指導時間が大幅に増え、より密にコミュニケーションが取れたことである。これは教員にも有益な結果であった。応用として、SNS を導入した授業展開は当科目だけでなく少数人数制の科目に様々な形で活用できる可能性があると考えられる。

今後の課題としては、Facebook 上で利用できるアプリが多数用意されているのでそれらを活用したい（例えば PDF ファイルを共有するようなデータアップロードアプリやアンケートを作成・回答するアプリ等）。また、学生の抵抗感・不信感による利用頻度の低下の解決などが挙げられる。

謝辞 本研究においてご助言をいただいた秋草学園短期大学文化表現学科教授・吉井利真先生に深謝の意を表す。また授業アシスタントとしてご協力いただいた澤田亜美氏に感謝する。

参考文献

- 1) 斎藤奈保子: Web デザイン教育におけるドキュメント記述について-情報デザインの視点から-, 秋草学園短期大学紀要第 24 号, pp. 225-241 (2007).
- 2) 秋草学園短期大学文化表現学科「講義科目一覧」
http://www.akikusa.ac.jp/tandai/course/cultural_2.html
- 3) mixi 公式サイト「FY2011 First-Quarter Earning Results Briefing Session」
<http://mixi.co.jp> (2011 年調査)
- 4) Nielsen
<http://jp.nielsen.com/site/index.shtml>
- 5) comScore.
<http://www.comscore.com>
- 6) Facebook 公式サイト「統計」
<http://www.facebook.com/press> (2011 年調査)